

(別紙5)

補助事業番号 28-2-036

補助事業名 平成28年度 児童、高齢者、障害者が相補的に関わることのできる
地域共生型社会づくりを促進する活動 補助事業

補助事業者名 公益社団法人日本フィランソロピー協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

高齢者、障害者、青少年などが世代を超え相互に支え合う地域共生社会の実現に向け、その担い手を地域社会の中でいかに育てていくか。希薄になりつつある関係性を取り戻すため、学校を核にした地域コミュニティをいかに作っていくか。地域社会と小中学生が関わりながら自分たちにできることを担っていく、そうしたきっかけづくりの事業を行っています。

(2) 実施内容

① セミナーの開催

② 地域共生プログラムの推進

各地域の学校が懸け橋となり、子どもと地域を結び地域共生を促進する取り組みを推進しています。

杉並区立杉並和泉学園 <http://www.philanthropy.or.jp/ccp/izumi/2016/>

小城市立砥川小学校 <http://www.philanthropy.or.jp/ccp/schools/togawa.pdf>

墨田区立両国中学校 <http://www.philanthropy.or.jp/ccp/schools/ryogoku.pdf>

高森町立高森中学校 <http://www.philanthropy.or.jp/ccp/schools/takamori.pdf>

③ シンポジウムの開催

「地域共生」「サービス・ラーニング」をテーマにシンポジウムを開催しました。「サービス・ラーニング」は、知識と社会貢献活動を融合させ「市民性」「社会参画意識」を育む教育法として米国の多くの小中学校で導入されています。米国における成果と課題、日本で実践する意義と可能性について考えました。

<http://www.philanthropy.or.jp/ccp/20170318/>

(別紙5)

2 予想される事業実施効果

地域社会における学校が核となった多世代交流の促進。

地域で高齢者、障害者等の福祉に取り組むNPOや各組織と小中学生が交流し、
募金・寄付活動を行うことで地域住民との関係づくりを促進できる。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

「社会貢献学習 チャリティチャレンジ・プログラムガイドブック」

「活動あって学びあり！」の体験学習へ

～募金・寄付を核にしたサービス・ラーニングの可能性～

<http://www.philanthropy.or.jp/ccp/publication/>

<http://www.philanthropy.or.jp/ccp/guidebook/>

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 公益財団法人日本フィランソロピー協会

(コウエキシャダンハウジンニホンフィランソ
ロピーキョウカイ)

住所： 〒100-0004

東京都千代田区大手町新大手町ビル244区

代表者： 理事長 高橋 陽子 (タカハシ ヨウコ)

担当部署： 事業部 (ジギョウブ)

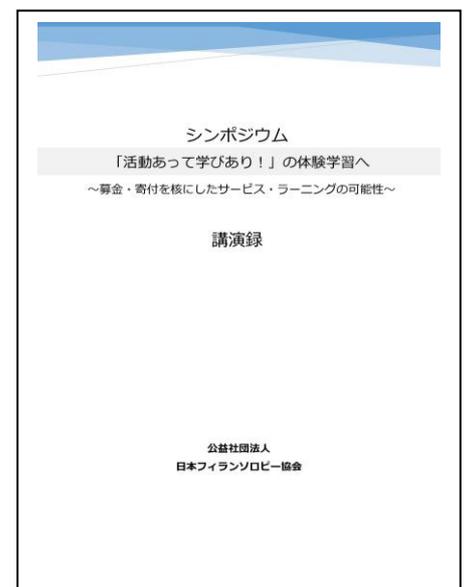
担当者名： 宮本 栄 (ミヤモト サカエ)

電話番号： 03-5205-7580

F A X : 03-5205-7585

E - m a i l : JPA-info@philanthropy.or.jp

U R L : <http://www.philanthropy.or.jp>



目次	
(1) ごあいさつ.....	3
(2) 開会挨拶.....	4
(3) 基調講演.....	7
(4) 「募金・寄付を核にしたサービス・ラーニング」.....	15
実践事例紹介.....	15
華南小城市立延川小学校.....	15
華南小城市立南園中学校.....	19
華南小城市立高森中学校.....	23
(5) チャリティチャレンジ・プログラムのご紹介.....	27
学習の基本的な種類.....	28
学習の流れ.....	29
PLAN.....	29
Do.....	30
Check & Action.....	31
日本フィランソロピー協会のサポート.....	32
日本フィランソロピー協会の紹介.....	33